



西武新宿線立体化の早期実現などを東京都に要請！ ～ 区、区民、区議会が一丸となって取り組む～

11日、前川耀男練馬区長（西武新宿線立体化促進協議会会長）は、区民、区議会議員とともに都庁を訪問し、西武新宿線（井荻～東伏見駅付近）の早期立体化と外環の2の早期整備などに関する要望書を提出した。本年1月に初めて要請活動を行い、今回は2回目となる。

対応した安藤副知事は、「地元の皆様の思いを感じている。鉄道立体化に向けた検討を更に進めていく。まちづくりをより一層進めていただきたい。また、外環の2の上石神井駅周辺については、測量やまちづくり手法を活用した道路整備の方策の検討などを進めていく。」と話した。



【安藤副知事へ要望書を手渡す前川区長】

【要請内容】 別紙資料のとおり

【西武新宿線の立体化について】

練馬区内全区間を含む、井荻から東伏見駅付近について、東京都は、平成16年に「鉄道立体化の検討対象区間」として抽出し、平成20年に、同区間を連続立体交差事業の事業化の可能性について検討を進める「事業候補区間」として位置付けている。

【外環の2の整備】

昨年11月、東京都は、西武新宿線と交差する外環の2について、鉄道立体化を見据え、上石神井駅の西側に5,100㎡の交通広場を設置する計画を含む都市計画変更を行った。外環の2は良好な景観形成に資する植樹帯の設置や歩行者、自転車、自動車の通行空間を構造的に分離する計画となっている。



【要請活動に参加した方々】

【練馬区のこれまでの取組】

練馬区は、上井草駅、上石神井駅、武蔵関駅の沿線3駅周辺地区について、鉄道立体化を見据え、まちづくりの方向性を示した「まちづくり構想」を策定している。この構想の具体化に向けて、上石神井駅周辺地区から住民参加型のワークショップを開始したことなど、地域の皆様とともに積極的なまちづくりの検討に取り組んでいる。

【西武新宿線立体化促進協議会】

平成27年1月25日、区民、区議会、区が一体となり西武新宿線立体化促進協議会を結成。西武新宿線の区内全区間を含む井荻から東伏見駅付近の鉄道立体化の早期実現と、外環の2を始めとした南北道路整備等にあわせた沿線地域のまちづくりの推進を図ることを目的としている。1月29日には、結成後東京都への初めての要請活動を実施した。

【西武新宿線立体化促進協議会の構成員】（ ）内は人数

- ・ 会長：区長
- ・ 副会長：地元団体の代表（5）、区議会議員、副区長
- ・ 顧問：区議会議員の有志（34）
- ・ 構成員：町会・自治会、商店会、小・中学校PTA（31）

【問い合わせ】 都市整備部 交通企画課 交通企画担当係

電話 03-5984-1274

要望書

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年11月、西武新宿線の立体化を見据え、外環の2を平面として計画幅員を縮小し、上石神井駅に交通広場を設置する都市計画変更が東京都により行われました。これを契機として、西武新宿線の立体化に向けた機運が一気に高まり、本年1月の区民、区議会、区による「西武新宿線立体化促進協議会」結成に至りました。結成大会では、外環の2を始めとする区内の南北道路整備にあわせて、沿線地域のまちづくりに取り組むこと等を確認し、同月中に鉄道立体化の早期実現に関する東京都への要請活動を実施しました。要請活動の実施後も、鉄道立体化等に対する地元の声は、益々大きくなっています。

区は、これまで地域住民とともに、沿線のまちづくりを鉄道立体化と一体的に進めていくため、上井草駅、上石神井駅、武蔵関駅の各駅周辺地区において、まちづくり構想を策定しました。まちづくり構想の具体化に向けては、外環の2が交差する上石神井駅周辺地区を手始めに、住民参加型のワークショップを開催するなど検討を進めているところです。上井草駅や武蔵関駅の駅周辺地区についても、同様に検討していきます。

安全・安心で、快適な暮らしやすいまちとしていくためにも、鉄道の立体化や外環の2などの南北道路の整備が不可欠です。是非とも本要望趣旨にご理解をいただき、地元の長年の悲願である鉄道の立体化と南北道路の整備について、早急に事業化の取組を進めていただきますよう、下記の事項を要望いたします。

記

- 1 西武新宿線（井荻～東伏見駅付近）の連続立体交差化の早期事業化に向けた取組を進めるとともに、外環の2についても積極的に整備に取り組むこと
- 2 外環の2については、区内全ての区間の早期整備に取り組むこと。とりわけ、上石神井駅付近については、駅前にふさわしい魅力あるまちづくりを早期に実現できるよう、区と連携して進めること

平成27年11月11日

西武新宿線立体化促進協議会
会長（練馬区長） 前川 耀男

東京都知事 舛添 要一 様